

本件の対外公表時刻は
4月20日(金) 8時50分

2012年4月20日

日本銀行金融機構局

主要銀行貸出動向アンケート調査 <2012/4月>

回答期間：2012年3月9日～2012年4月11日

調査対象数：50行庫（詳細は最終頁の注1を参照）

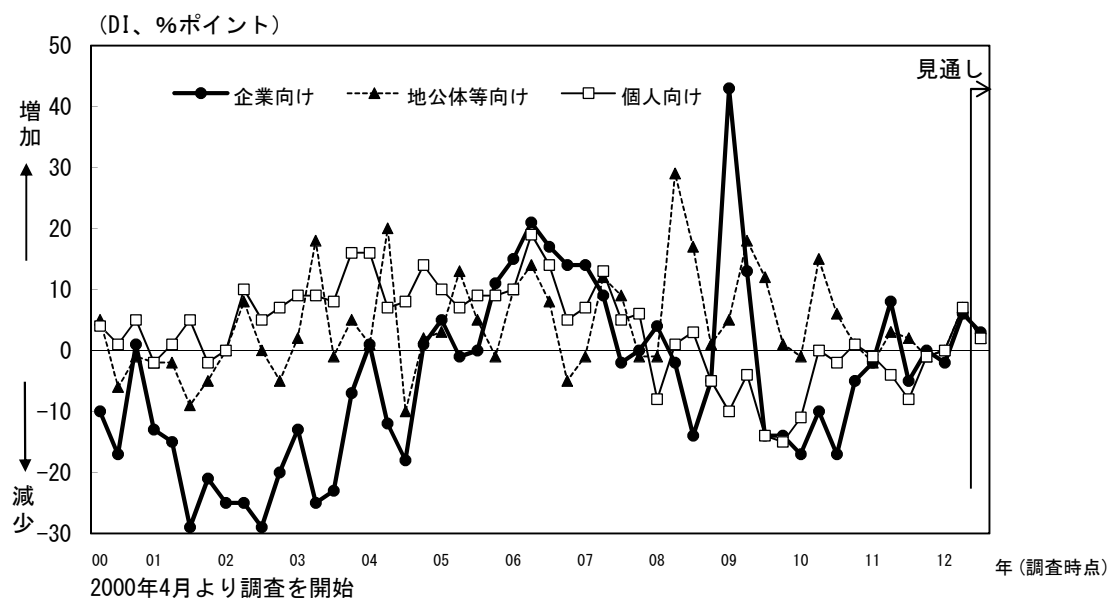
I. 資金需要動向（質問1.～6.）

1. 過去3ヶ月間において、「企業向け」、「地公体等向け」、「個人向け」の資金需要がどのように変化したか。

	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)	回答金融機関数（下段は構成比）					合計
			増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
企業向け	6	-2	0	7	42	1	0	50
			0%	14%	84%	2%	0%	
地公体等向け	7	0	1	7	40	2	0	50
			2%	14%	80%	4%	0%	
個人向け	7	0	1	6	41	1	0	49
			2%	12%	84%	2%	0%	

* 資金需要判断D.I. = (「増加」とした回答金融機関構成比 + 0.5 × 「やや増加」とした回答金融機関構成比) - (「減少」とした回答金融機関構成比 + 0.5 × 「やや減少」とした回答金融機関構成比)。以下、質問2.、質問4.、質問6.において同じ。

主体別資金需要判断



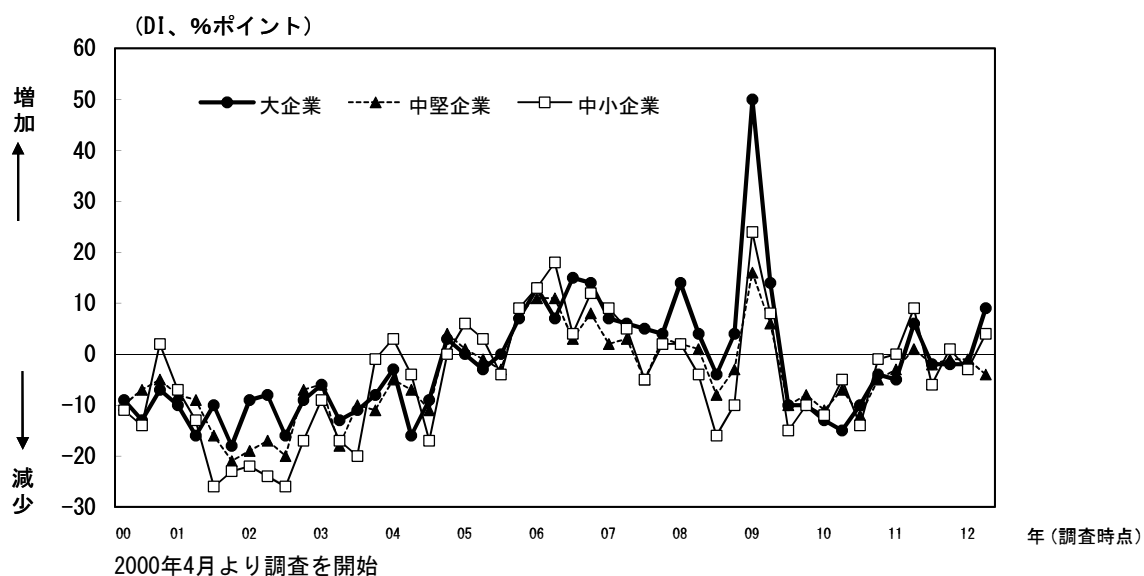
* 見通しは、質問6. を参照。

2. 「企業向け」のうち、規模別および業種別にみた資金需要の変化。

＜全体＞	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	9	-2
中堅企業向け	-4	-1
中小企業向け	4	-3

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	9	41	0	0	50
0%	18%	82%	0%	0%	
0	0	46	4	0	50
0%	0%	92%	8%	0%	
0	5	44	1	0	50
0%	10%	88%	2%	0%	

企業規模別資金需要判断＜全体＞



＜製造業＞	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	3	1
中堅企業向け	-3	-4
中小企業向け	1	0

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
1	3	44	2	0	50
2%	6%	88%	4%	0%	
0	3	43	2	2	50
0%	6%	86%	4%	4%	
0	4	43	3	0	50
0%	8%	86%	6%	0%	

＜非製造業＞	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	8	-2
中堅企業向け	-3	1
中小企業向け	4	-4

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	8	42	0	0	50
0%	16%	84%	0%	0%	
0	0	47	3	0	50
0%	0%	94%	6%	0%	
0	5	44	1	0	50
0%	10%	88%	2%	0%	

＜建設・不動産＞	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	2	-6
中堅企業向け	0	2
中小企業向け	1	-6

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
3	2	41	2	2	50
6%	4%	82%	4%	4%	
1	2	45	0	2	50
2%	4%	90%	0%	4%	
0	2	47	1	0	50
0%	4%	94%	2%	0%	

＜金融・保険＞	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	6	-4
中堅企業向け	-1	-1
中小企業向け	-1	-5

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
2	2	46	0	0	50
4%	4%	92%	0%	0%	
0	0	48	1	0	49
0%	0%	98%	2%	0%	
0	3	44	0	2	49
0%	6%	90%	0%	4%	

＜その他非製造業＞	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	9	1
中堅企業向け	-3	0
中小企業向け	3	1

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	10	39	1	0	50
0%	20%	78%	2%	0%	
0	0	47	3	0	50
0%	0%	94%	6%	0%	
0	4	45	1	0	50
0%	8%	90%	2%	0%	

3. a. 質問2.において、全体の資金需要の変化に対する回答を「増加」あるいは「やや増加」とした場合、資金需要が増加した要因は何か（規模別にお答え下さい）。

＜判断スケール＞ 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
①売上の増加	1.44	n. a.	1.60
②設備投資の拡大	1.33	n. a.	1.40
③資金繰りの悪化	1.11	n. a.	1.20
④手許資金の積み増し	1.78	n. a.	1.20
⑤他の調達手段からのシフト	1.56	n. a.	1.00
⑥貸出金利の低下	1.56	n. a.	2.00
⑦その他	1.00	n. a.	1.40
回答数	9	0	5

* 「平均値」は、「判断スケール」をウェイトとし、ウェイト×回答金融機関構成比を合計したもの（加重平均値）。以下、質問3. b.、質問5.において同じ。

3. b. 質問2.において、全体の資金需要の変化に対する回答を「やや減少」あるいは「減少」とした場合、資金需要が減少した要因は何か（規模別にお答え下さい）。

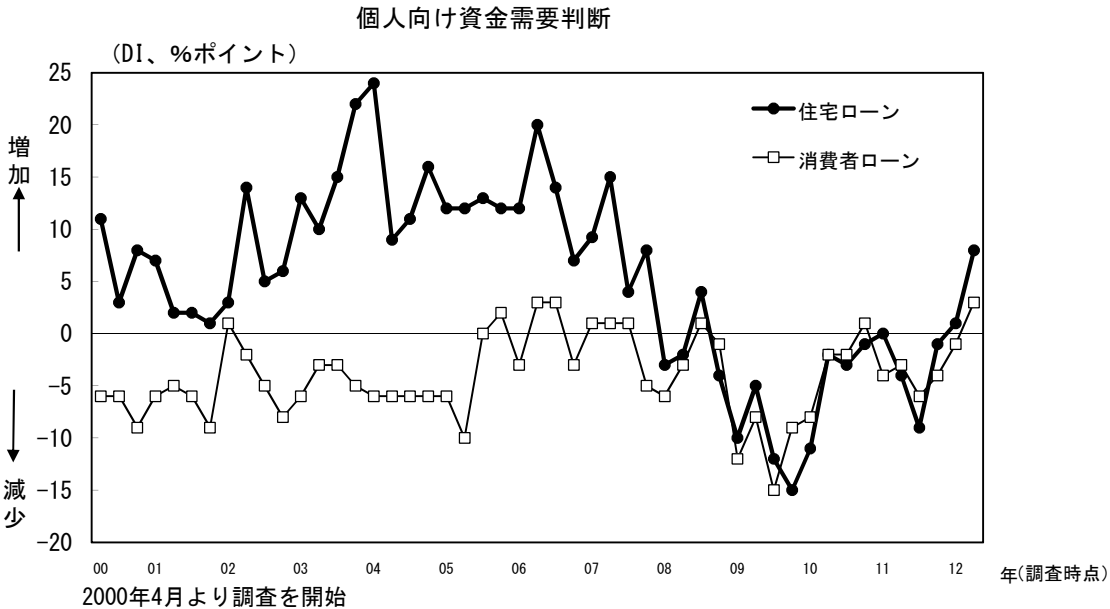
<判断スケール> 重要<3> やや重要<2> 重要でない<1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
①売上の減少	n. a.	1. 50	2. 00
②設備投資の減少	n. a.	1. 75	2. 00
③資金繰りの好転	n. a.	1. 00	1. 00
④手許資金の取崩し	n. a.	1. 50	1. 00
⑤他の調達手段へのシフト	n. a.	1. 00	1. 00
⑥貸出金利の上昇	n. a.	1. 00	1. 00
⑦その他	n. a.	1. 50	1. 00
回答数	0	4	1

4. 「個人向け」のうち、住宅ローン、消費者ローンの資金需要の変化。

	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)	回答金融機関数（下段は構成比）					合計
			増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
住宅ローン	8	1	1	7	40	1	0	49
			2%	14%	82%	2%	0%	
消費者ローン	3	-1	1	4	41	3	0	49
			2%	8%	84%	6%	0%	

* 資金需要判断D. I. の算出方法は、質問1. の*印を参照。



5. a. 質問4.において、資金需要の変化に対する回答を「増加」あるいは「やや増加」とした場合、資金需要が増加した要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	住宅ローン	消費者ローン
	平均値	平均値
①住宅投資の拡大	1.50	1.20
②個人消費の拡大	1.25	1.40
③個人所得の減少	1.00	1.20
④貸出金利の低下	1.63	1.60
⑤その他	1.50	1.60
回答数	8	5

* 平均値の算出方法は、質問3. a. の* 印を参照。

5. b. 質問4.において、資金需要の変化に対する回答を「やや減少」あるいは「減少」とした場合、資金需要が減少した要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	住宅ローン	消費者ローン
	平均値	平均値
①住宅投資の減少	1.00	1.00
②個人消費の減少	1.00	2.33
③個人所得の増加	1.00	1.33
④貸出金利の上昇	1.00	1.00
⑤その他	3.00	1.00
回答数	1	3

6. 今後3ヶ月間において、「企業向け」、「地公体等向け」、「個人向け」の資金需要がどのように変化するとの見通しを持っているか。

	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
企業向け	3	3
地公体等向け	2	1
個人向け	2	2

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	3	47	0	0	50
0%	6%	94%	0%	0%	
1	0	49	0	0	50
2%	0%	98%	0%	0%	
0	3	45	1	0	49
0%	6%	92%	2%	0%	

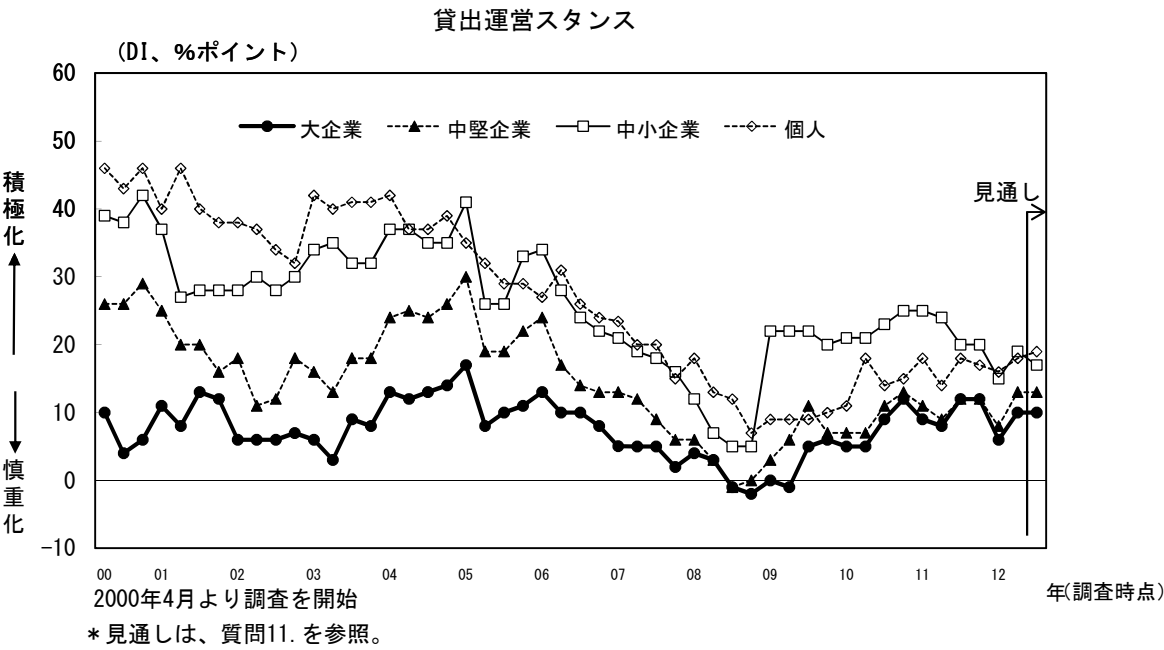
* 資金需要判断D. I. の算出方法は、質問1. の* 印を参照。

Ⅱ. 貸出運営スタンス、利鞘設定の変化（質問 7. ～13.）

7. 過去3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」、「個人向け」の貸出運営スタンスをどのように変化させたか。

	貸出運営スタンス D.I. (%ポイント)	(前回)	回答金融機関数（下段は構成比）					合計
			積極化	やや積極化	ほぼ不変	やや慎重化	慎重化	
大企業向け	10	6	3	4	43	0	0	50
			6%	8%	86%	0%	0%	
中堅企業向け	13	8	3	7	40	0	0	50
			6%	14%	80%	0%	0%	
中小企業向け	19	15	6	7	37	0	0	50
			12%	14%	74%	0%	0%	
個人向け	18	16	7	4	38	0	0	49
			14%	8%	78%	0%	0%	

* 貸出運営スタンスD.I. = (「積極化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや積極化」とした回答金融機関構成比) — (「慎重化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや慎重化」とした回答金融機関構成比)。以下、質問11. において同じ。



8. a. 質問7.において、企業向け（規模別）の貸出運営スタンスの変化に対する回答を「積極化」あるいは「やや積極化」とした場合、積極化させた要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
① 自らの資産内容の好転	1.14	1.20	1.15
② 経済見通しの好転	1.29	1.30	1.23
③ 特定業種・企業の業況（業績）好転	1.29	1.30	1.15
④ 他行との競合激化	2.14	2.30	2.15
⑤ 他業態との競合激化	1.29	1.20	1.15
⑥ 直接市場調達との競合激化	1.29	1.00	1.00
⑦ ALM上のリスク許容度の上昇	1.00	1.10	1.08
⑧ 成長分野への取り組み強化	2.57	2.60	2.31
⑨ その他	1.86	1.60	1.62
回答数	7	10	13

* 「平均値」は、「判断スケール」をウェイトとし、ウェイト×回答金融機関構成比を合計したもの（加重平均値）。

8. b. 質問7.において、企業向け（規模別）の貸出運営スタンスの変化に対する回答を「やや慎重化」あるいは「慎重化」とした場合、慎重化させた要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
① 自らの資産内容の悪化	n. a.	n. a.	n. a.
② 経済見通しの悪化	n. a.	n. a.	n. a.
③ 特定業種・企業の業況（業績）悪化	n. a.	n. a.	n. a.
④ 他行との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑤ 他業態との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑥ 直接市場調達との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑦ ALM上のリスク許容度の低下	n. a.	n. a.	n. a.
⑧ その他	n. a.	n. a.	n. a.
回答数	0	0	0

9. 過去3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」について、以下に掲げる貸出条件をどのように変化させたか。

	貸出条件設定D. I. (%ポイント)		
	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
① 信用枠（拡大＝緩和）	4	3	3
② 利鞘設定（縮小＝緩和）	4	2	1
③ 借り手の信用リスク評価	0	0	0
④ 担保設定	0	0	0
回答数	50	50	50

* 貸出条件設定D. I. = （「緩和」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや緩和」とした回答金融機関構成比）－（「厳格化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや厳格化」とした回答金融機関構成比）。以下、質問12.において同じ。

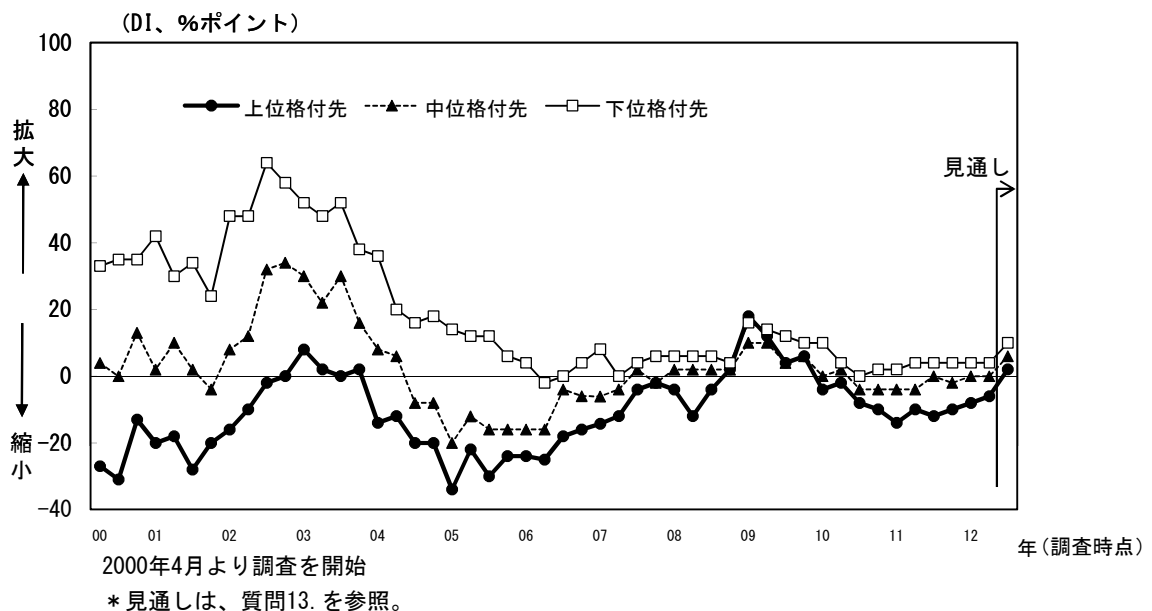
10. 過去3ヶ月間において、「企業向け」のうち、格付別（上位・中位・下位）にみた利鞘設定をどのように変化させたか。

	利鞘設定 D. I. (%ポイント)	(前回)
上位格付先	-6	-8
中位格付先	0	0
下位格付先	4	4

回答金融機関数（下段は構成比）			合計
拡大	横這い	縮小	
1	45	4	50
2%	90%	8%	
1	48	1	50
2%	96%	2%	
2	48	0	50
4%	96%	0%	

* 利鞘設定D. I. = 「拡大」とした回答金融機関構成比 — 「縮小」とした回答金融機関構成比。以下、質問13. において同じ。

格付別利鞘設定



11. 今後3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」、「個人向け」の貸出運営スタンスをどのように変化させる方針か。

	貸出運営スタンス D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	10	6
中堅企業向け	13	8
中小企業向け	17	14
個人向け	19	13

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
積極化	やや積極化	ほぼ不変	やや慎重化	慎重化	
3	4	43	0	0	50
6%	8%	86%	0%	0%	
3	7	40	0	0	50
6%	14%	80%	0%	0%	
6	5	39	0	0	50
12%	10%	78%	0%	0%	
6	7	36	0	0	49
12%	14%	73%	0%	0%	

* 貸出運営スタンスD. I. の算出方法は、質問7. の*印を参照。

12. 今後3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」について、以下に掲げる貸出条件をどのように変化させる方針か。

	貸出条件設定D. I. (%ポイント)		
	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
①信用枠（拡大＝緩和）	3	3	3
②利鞘設定（縮小＝緩和）	0	-1	-2
③借り手の信用リスク評価	0	0	0
④担保設定	0	0	0
回答数	50	50	50

* 貸出条件設定D. I. の算出方法は、質問9. の*印を参照。

13. 今後3ヶ月間において、「企業向け」のうち、格付別（上位・中位・下位）にみた利鞘設定をどのように変化させる方針か。

	利鞘設定 D. I. (%ポイント)	(前回)	回答金融機関数（下段は構成比）			合計
			拡大	横這い	縮小	
上位格付先	2	2	2 4%	47 94%	1 2%	50
中位格付先	6	4	3 6%	47 94%	0 0%	50
下位格付先	10	8	5 10%	45 90%	0 0%	50

* 利鞘設定D. I. の算出方法は、質問10. の*印を参照。

注)

- 1) 本調査は、日本銀行と取引のある国内銀行および信用金庫のうち、貸出残高（2010年度期中平残）の上位50先の協力を得て実施。国内銀行および信用金庫の貸出残高全体（2010年度期中平残）に占める調査対象50先の貸出シェアは75%。
- 2) 「個人」には、個人企業は含まない。
- 3) 「地公体等向け」は、公務としての都道府県、市町村のほか、それぞれの直営事業（交通、水道、電気、ガス、病院等）を含む。
- 4) 企業規模別の分類は、以下のとおり。
 - ・「大企業」：資本金10億円以上、かつ常用従業員300人（「卸売業」、「サービス業」は100人、「小売業」、「飲食店」は50人）超の法人。
 - ・「中小企業」：資本金3億円以下または常用従業員300人以下（卸売業は資本金1億円以下または常用従業員100人以下、小売業、飲食店、サービス業は資本金5,000万円以下または常用従業員50人以下〈サービス業は100人以下〉）の法人および個人企業。
 - ・「中堅企業」：大企業、中小企業以外の法人。
- 5) 「上位格付」、「中位格付」、「下位格付」については、各行の内部格付に則して、各行の判断・分類で回答。目安としては、国内長期債格付AAA～BBB＝上位格付、BB～B＝中位格付、CCC以下＝下位格付。

以 上

照会先： 金融機構局 金融データ課 預貸金統計グループ Tel：03-3277-1581